

【英検<sup>®</sup>準 1 級】要約問題 完全攻略ガイド

講義編

要約問題

# 【英検<sup>®</sup>準 1 級】要約問題 完全攻略ガイド

## 1 要約問題[傾向と対策]

要約は「英語を書く力」だけではなく、長文を構造で読む力(論点整理)＋情報を削る力(抽象化)＋ミスなくまとめる力(整形) が同時に試されます。ただし、型と手順を固定すれば、得点は安定します。

---

### ➤ 準 1 級 要約問題の試験内容

要約問題は、一次試験ライティングのうちの 1 問です。

- 英文:おおよそ 200 語程度
- 構成:3 段落の基本
- 語数:60～70 語で要約(語数は厳格)
- テーマ:ビジネス/政治/環境/教育/社会課題など

ポイントは、「細部の知識」よりも、各段落の要点を 1 つずつ拾って一貫した要約にすることです。

---

### ➤ 2) 採点の仕組みと目標点

採点は 4 観点(各 0～4 点)の合計 16 点です。英作文と合わせて 32 点満点になります。

- 内容(Content):全段落の要点が入っているか/主旨がズレていないか
- 構成(Organization):論理の流れが自然で読みやすいか
- 語彙(Vocabulary):準 1 級相当の語彙を適切に使えているか/同じ表現の繰り返しがないか
- 文法(Grammar):文構造が正確か/単調すぎないか

目標は 12 点以上。さらに注意点として、構成・語彙・文法が良くても、要約として内容が不十分と判断されると 0 点になる場合があります。解答欄の外に書いたものは採点対象外です。

---

### ➤ 3) よく出る文章構成(3 段落の型)

準 1 級は、次の 2 パターンが特に多いです。

#### A. 意見の対立型

1 段落:話題の提示 / 2 段落:賛成意見＋根拠 / 3 段落:反対意見＋根拠

#### B. 影響の比較型

1 段落:話題の提示 / 2 段落:メリット / 3 段落:デメリット

結論として大切なのは、「1 段落＝要点 1 つ」を落とさず拾うことです。どれか 1 段落

が抜けると、内容点が大きく崩れます。

---

➤ 4) 解答の流れと時間配分(15分設計)

一次試験(Reading+Writing)は90分。要約は約15分を目安にします。

読解(4分) / 要約作成(8分) / 見直し(3分)

※下書きを長く取ると時間が足りなくなるので、メモは最小限にします。

---

➤ 5) 手順① 英文読解(4分)―「線を引く場所」を固定する

読むときは、以下だけに集中します。

- 1段落:話題(テーマ)と背景
- 2段落:良い点/賛成の理由
- 3段落:悪い点/反対の理由(または限界)

特に、次のようなつなぎ語(ディスコースマーカー)の直後は要点が来やすいです。

- 追加: also / in addition / moreover
- 因果: because / therefore / as a result / thus
- 対比: however / on the other hand / in contrast / whereas
- まとめ: overall / in short

数字や具体例は原則カット対象。要点は「一般化」して拾います。

---

➤ 6) 手順② 要約文作成(8分)―「3文テンプレ」に当てはめる

【基本テンプレ(3文)】

- 1文目:話題+背景(何の話か)
- 2文目:プラス面(理由・効果)
- 3文目:マイナス面(問題・限界)

具体例はそのまま書かず、次のように抽象化します。

- “for example …” → “for example”自体を消して「一般的に」へ
- 固有名詞・数字 → “some / many / in some cases” などへ
- 細かい説明 → “This can lead to … / This may result in …” の1フレーズへ

また、原文の言い回しを丸ごと使いすぎないように、キーワード以外は言い換えます。

---

➤ 7) 手順③ 見直し(3分)―採点者チェックを再現する

次の4つだけ確認すれば十分です。

1. 語数が60~70語か(超過・不足なし)
2. 3段落の要点が入っているか(1つでも抜けていないか)
3. 内容が原文から逸れていないか(自分の意見が混ざっていないか)
4. 致命的なミス(主語・動詞・複数形・スペル)がないか

---

➤ 8) 減点されやすい失敗(準1級で特に多い)

- 語数オーバー(70語超):今は語数が厳格。1語でも超えると危険
  - 語数不足(60語未満):情報不足と判断されやすい
  - 原文のコピペが多い:言い換え不足で語彙・構成が伸びにくい
  - 段落のどれかが抜ける:内容点が落ちる典型
  - 下書きに時間を使いすぎる:清書不足→ミス増
- 

➤ 9) よくある失敗と注意点

- ①語数が多すぎる・少なすぎる…現在は語数制限が厳格です。長すぎても短すぎても減点対象になります。
  - ②難しい表現を使おうとする…高度な語彙は不要です。正確で分かりやすい表現が最優先です。
  - ③原文を写しすぎる…同じ言葉の繰り返しは評価を下げます。部分的な言い換えを意識しましょう。
  - ④aa 自分の考えを書いてしまう…要約問題では、“I believe that …”“In my view …”といった表現は使いません。
- 

**付録① 使えるディスコースマーカー最小セット(準1級用)**

準1級の要約で大事なものは、「多く覚える」ではなく、少数を確実に使って論理を見せることです。下のセットだけで十分戦えます。

A. 背景・導入(第1文で使う)

- Recently, / In recent years,(近年)
- As ~,(~なので/~につれて) 例:As public concern has grown, ...
- With + 名詞,(~という状況で) 例:With rising costs, ...

B. 追加・理由(第2文で使う)

- Moreover, / In addition,(加えて)
- This can lead to ~.(~につながり得る)
- This may result in ~.(~という結果になり得る)
- One key reason is that ~.(重要な理由の1つは~)

C. 対比・譲歩(第3文で必須)

- However,(しかし)
- On the other hand,(一方で)
- While ~, ...(~ではあるが…)

D. 結び(必要なときだけ)

※60~70語だと結論は「入れなくてもOK」。入れるなら短く。

- Overall,(全体として)

- Thus,(したがって)

---

使い方の鉄則(準1級要約)

- 3文なら:第1文=導入(Recently/As/With) / 第2文=追加(Moreover) / 第3文=対比(However/On the other hand)
  - マーカーは入れすぎない:1文に1個で十分
  - for example / for instance は基本削る(要約では例は抽象化)
- 

**付録② 60~70語に合わせる「短縮/増量テク」**

1) 短縮テク(70語を超えそうなとき)

A. 例・数字・固有名詞を消す

- for example / specific cases / detailed statistics  
→ 削除して一般化 例:“such as A and B” → “in some cases”

B. 「言い換え」より「圧縮」を優先

- “has the effect of reducing” → reduces
- “a large number of” → many
- “due to the fact that” → because

C. 3つ並列を2つにする(情報は落としすぎない)

- reduce waste / save resources / lower costs  
→ 2つ残して1つを統合

例:reduce waste and conserve resources(環境面をまとめる)

D. 関係詞節を削って分割 or 句にする

- “..., which may lead to ...”  
→ “..., possibly lowering ...”  
または  
→ “This may lower ...” (短くなることが多い)

E. 主語を繰り返さない

- “Companies... Companies...”  
→ This / Such efforts / They で受ける
- 

2) 増量テク(60語に届かないとき)

A. 「主張+理由」を1フレーズ足す

- “because ~”
- “by doing so”
- “in the long run”(多用はNG)

B. メリット or デメリットを「もう1観点」だけ補う

- 環境面だけ → 経済面を一言追加

- 経済面だけ → 消費者への影響を一言追加
- C. 抽象名詞を補って自然に増やす(安全)
- impact / concern / cost / convenience / protection
- 例: “raise concerns about safety” のように名詞で増やす
- D. 1文を2文に分ける(最終手段)
- 関係詞でまとめて短くなりすぎた場合、2文に分けると自然に語数が増えることが多いです。

### 3) 最強の語数調整チェック(3秒でできる)

- 60未満: デメリット側に1フレーズ足す(例: raise concerns about ~)
- 70超: 例・修飾語(especially / in many cases)を削る

### 付録③ 要約は「抜き出し+言い換え」の技術

要約問題では、ゼロから英文を創作する必要はありません。基本的には、本文の中から重要な箇所を見抜き、その内容を適切に言い換えてまとめる作業です。したがって、この問題で問われているのは、第一に「どこが重要か」を判断する読解力、第二に「それを別の形で表現できるか」という表現力です。

ただし、本文の表現をそのまま長く写すのは避ける必要があります。特に、本文から連続して4語以上をそのまま抜き出さないことを原則とします。キーワードは残してよい場合もありますが、基本的には語順を変える、品詞を変える、より一般的な語に置き換えるなどして、自分の英文としてまとめることが大切です。

また、言い換えには向き不向きがあります。名詞の言い換えは難しいことが多く、無理に変えるとかえって不自然になったり、語数が増えたりします。一方で、動詞や構文・文型は比較的言い換えやすく、しかも短くまとめやすい部分です。さらに、形容詞や副詞も置き換えやすいため、本文との重なりを減らすのに役立ちます。したがって、要約では「名詞を無理に変える」のではなく、「動詞・構文・文型・形容詞・副詞を中心に、原文より短くなるように言い換える」という意識をもつことが大切です。

なお、言い換えた結果、原文より長くなってしまふのは要約として不適切です。要約では、表現を変えること自体が目的ではなく、情報を圧縮しながらまとめることが目的だからです。したがって、「違う語を使うこと」よりも、「短く・自然に・要点だけを残すこと」を優先しなければなりません。

#### 【具体例】

##### ① 動詞を中心に短く言い換える

原文: Supporters of the law believe it is important.

要約例: Supporters say the law is needed.

👉 believe it is important を say the law is needed に変えることで、表現をずらしながらも短くまとめている。

② 長い表現を1つの動詞で圧縮する

原文: This equipment often costs a lot, so it is impossible for many farmers to afford.

要約例: Many farmers cannot afford the equipment.

👉 costs a lot と it is impossible to afford を cannot afford にまとめることで、大きく圧縮している。

③ 受動態を能動態にして簡潔にする

原文: Smoke containing harmful chemicals is released.

要約例: Burning it releases harmful smoke.

👉 受動態 is released を能動態 releases に変えることで、文の骨格が単純になり、短く自然な英文になる。

④ There is 構文を普通の文に変える

原文: There is another advantage to stopping stubble burning.

要約例: Stopping it has another benefit.

👉 There is 構文を has を用いた文に変えることで、より引き締まった表現になる。

⑤ 名詞は無理に変えず、全体を少し組み替える

原文: protect the health of both rural and urban populations

要約例: protect people's health in cities and rural areas

👉 名詞をすべて無理に変える必要はない。全体の形を少し組み替えるだけでも、原文の写しすぎを防ぐことができる。

要約では、「原文と違う語を使うこと」そのものが目的ではありません。必要な情報を落とさずに、できるだけ短く、自然で、原文に寄りすぎない形にまとめることが大切です。したがって、言い換えでは、名詞よりも動詞・構文・文型を動かし、情報を圧縮する方向で整えるのが基本になります。

---

**付録④ 自由英作文・大意要約をうまく見せるコツ(準1級用)**

➤ 【序論 | 英検ライティングの思想】「うまい英語」より「伝わる英語」

英検ライティングで高く評価される答案とは、ネイティブらしい表現や難解な語彙を用いた英文ではない。文法的に正しく、語法的に無理がなく、採点者が一読で意味を把握できる英語である。英検は表現力を競う試験ではなく、安全性と明確さを測る試験であり、「巧みな英語」よりも「確実に伝わる英語」が評価される。難しい語や構文は、成功すれば加点につながる可能性はあるが、ひとたび失敗すれば大きな減点を招く。一方、平易な語と基本構文は失点の可能性が極めて低い。たとえば *People tend to be excessively dependent on sophisticated digital platforms.* のような文は表現としては高度だが、語法や語感のズレが起きやすい。一方、*Many people depend too much on social media.* は語彙も構造も

単純で、意味が即座に伝わる。英検ライティングでは、安全な表現を積み重ねた答案が最終的に最も高得点になる。

➤ 【読み手本位という原則】採点者の視線から考える

英検ライティングでは、書き手の英語力以上に「読み手への配慮」が重要になる。採点者は短時間で大量の答案を処理する立場にあり、一文一文を精読する余裕はない。そのため、文が短く、構造が明確で、論理関係が視覚的に分かる答案ほど高評価になりやすい。たとえば *Students use smartphones in class and lose time and feel tired and get poor results.* のような文は、情報は多いが関係が見えにくい。一方、*When students use smartphones in class, they lose time and feel tired, which leads to poor results.* と書けば、原因から結果までが一文で自然につながり、読み手は立ち止まらずに理解できる。読み手を止めない英文は、それだけで評価上有利になる。

➤ 【語彙選択の基本】平易で、意味の軸が立つ語を選ぶ

具体的な書き方として、まず重要なのが語彙選択である。難語は一見情報量が多く見えるが、実際にはスペルミスや語法ミスを引き起こしやすく、失点の原因になりやすい。特に動詞は文の核であり、ここで誤ると文全体が崩れる。purchase より buy、obtain より get、provide より give を選ぶのは、「簡単だから」ではなく「正しく使い切れる確率が高いから」である。たとえば *This policy will contribute to the improvement of society.* よりも *This policy will help society.* の方が短く、語法の危険も少ない。また、good や nice などの意味が広すぎ、評価の軸が見えない語は避ける。*Digital textbooks are good for students.* では何が良いのか分からないが、*Digital textbooks are useful for students.* とすれば評価の方向が明確になる。

➤ 【動詞中心の発想】名詞を並べず、動きを示す

自由英作文では名詞中心ではなく、動詞中心で組み立てる方が分かりやすく、評価も安定する。抽象名詞を重ねると内容がぼやける。*This plan has a positive effect on students.* は意味は通るが弱い。一方、*This plan helps students.* と書けば、何が起きているかが一瞬で分かる。動詞を立てることで、原因・変化・結果が可視化される。

➤ 【一文の設計】15 語前後を基準にする

一文の長さは、英検ライティングの安定性を左右する重要要素である。文が長くなるほど、主語と動詞の一致、修飾関係、接続処理が複雑になり、文法ミスが増える。*Many people think that social media is useful because it allows them to communicate easily with others and share information quickly.* は内容過多で崩れやすい。これを *Many people think that social media is useful. It allows them to communicate easily with others.*

と分ければ、各文は十五語前後に収まり、構造が安定し、採点者も一読で意味を取れる。英検では「一文で多く語ること」は評価されない。

➤ 【全体構成の固定】三文か四文にする理由

文章全体の構成は、三文または四文に固定するのが最も実戦的である。三文構成は書きやすく時間がない場合に強いが、理由文が長くなりやすい。四文構成では理由を分けることで一文あたりの負担が軽くなり、論理の流れが明確になる。たとえば *I think students should use digital textbooks in school. One reason is that they are easy to carry. Another reason is that students can study anywhere. For these reasons, digital textbooks are useful.* のように書けば、各文の役割が明確で、「書けている」印象を与えやすい。うまく見せることを重視するなら四文構成が最も安全である。

➤ 【構文戦略】基本構文を徹底する必然性

構文については、基本構文を徹底することが最も合理的な戦略である。SVO は語順が固定され、文法ミスが起きにくい。be 動詞を減らし、動作や変化を示す動詞を立てることで、短くても情報量が増す。さらに、*Online learning gives students more chances to study.* (第4文型) や *This experience makes students more confident.* (第5文型) のような文は、構造は簡単だが、因果関係や影響が一目で分かり、英検と非常に相性がよい。

➤ 【執筆姿勢の核心】考えながら書かない——設計してから書く

英検ライティングで最も避けるべき行為は「考えながら書くこと」である。書きながら内容を考えると、文の長さや構文が場当たり的になり、ミスが連鎖する。書く前に、全体構成(3文か4文)→各文の内容→用いる構文まで決め切る。たとえば「第2文は *One reason is that S V*、第3文は *Another reason is that S V*、結論は *For these reasons,*」と決めてから書けば、実際の執筆は清書に近くなる。下書きは内容を考える場ではなく、安全性を確認する場である。

➤ 【総括】設計された英文こそが、最も美しい

英検ライティングで「うまく見せる」とは、語彙を飾ることではない。思想としては「安全・明確・読み手本位」を貫き、書き方としては「平易な語・短い文・基本構文・論理語」を用い、さらに書く前に全体を設計し切ることである。この三つが一致したとき、答案は自然と評価される形になる。

**付録④ 0点答案・減点答案・高得点答案の比較(同一素材)**

ここでは、前回扱った「包装削減」系の文章(3段落:背景→利点→欠点)を想定して、同じテーマで答案例を3種類示します。

※準1級の語数(60~70語)に合わせます。

A. 0点になり得る答案(要約になっていない例) ✗

I think reducing wrapping is a great idea. We should protect the environment, so everyone must use less packaging. In my opinion,

governments should make strict rules, and people need to change their lifestyle. This is important for our future.

なぜ 0 点になり得るか

- 自分の意見(I think / should)が中心で、原文要約になっていない
  - 原文にある 利点(資源・コスト)や欠点(破損・追加費用) が抜けている
  - 内容点が成立しない(=要約として不十分)
- 

B. 減点されやすい答案(要点不足・言い換え不足)△

Nowadays, companies are reducing wrapping materials. This reduces waste and helps the environment. However, there are some drawbacks. Products may be damaged during transportation, and people may need to pay for wrapping when buying gifts. Some people do not like this.

どこで減点されるか(具体)

- 第 2 段落の要点が不足:原文の「資源節約」「コスト減→価格」の要点が欠落
- “Some people do not like this” が曖昧で幼い(準 1 級語彙として弱い)
- 構成はあるが、内容が薄く、語彙点が伸びにくい

## 2 要約問題…2025年度 第2回 英検 英検準1級

- Read the article below and summarize it in your own words as far as possible in English.
  - Summarize it between 60 and 70 words.
  - Write your summary in the space provided on Side A of your answer sheet. Any writing outside the space will not be graded.
- 

Some crops, such as rice and wheat, are harvested by cutting off the top of the plant. When farmers gather such crops, they leave the bottom part in the ground. This part is called stubble. Farmers need space to plant their next crops, so some of them burn the stubble. Now, some countries want to make a law that stops farmers from doing this.

Supporters of the law believe it is important. People's health will be protected. This is because when stubble is burned, smoke containing harmful chemicals is released. It can travel long distances, so the law would benefit the health of both rural and urban populations. There is another advantage to stopping stubble burning. The quality of soil on farms can be maintained. There are small organisms, such as bacteria, in the soil that make crops grow more easily. When stubble is burned, the ground becomes extremely hot, which kills these organisms. This will not happen if stubble burning is banned.

However, opponents of the law are worried. Removing stubble from fields can be very difficult. Without fire, farmers need to buy specialized mechanical equipment to get rid of it. This equipment often costs a lot, so it is impossible for many farmers to afford.

## 全訳

米や小麦などの作物の中には、植物の上部を刈り取ることで収穫されるものがある。農家がそのような作物を収穫すると、下の部分は地面に残される。この部分は「刈り株(stubble)」と呼ばれる。農家は次の作物を植えるためのスペースが必要なため、刈り株を燃やす人もいる。現在、これを禁止する法律を作ろうとしている国もある。

この法律の支持者は、その重要性を信じている。刈り株が燃やされると、有害な化学物質を含む煙が放出されるため、人々の健康が守られるからである。その煙は長距離を移動することができるため、この法律は農村部と都市部の両方の人々の健康に利益をもたらす。また、刈り株焼却を止めることには別の利点もある。農地の土壌の質を保つことができるのである。土壌には、作物の成長を助ける細菌などの小さな生物が存在している。刈り株が燃やされると地面が非常に高温になり、これらの生物が死んでしまう。刈り株焼却が禁止されれば、これは起こらない。

しかし、この法律の反対者たちは懸念している。刈り株を畑から取り除くのは非常に難しい場合がある。火を使わない場合、農家は刈り株を処理するために特別な機械設備を購入する必要がある。その設備は高価なことが多く、多くの農家にとっては購入できないのである。

## 解答の指針

原文(要旨)

- 作物収穫後に残る stubble(刈り株) を燃やす農業慣行
- それを 禁止する法律 を作ろうとする国がある
- 賛成派:健康・環境・土壌保全
- 反対派:費用・設備負担が大きい

## 解答の指針

① 高得点につながる具体ポイント(採点基準に直結)

以下は、準1級の実際の採点者視点を意識したチェックポイントです。

### ①【内容】何を「必ず」入れるべきか

この英文の要点は、準1級でも「3点セット」です。

#### 1. 背景・話題

- stubble(収穫後に残る刈り株)
- 焼却を禁止する法律の検討

#### 2. 賛成意見(プラス面)

- 健康被害の防止(有害な煙)
- 土壌の質の維持
- 微生物の保護 → 作物成長

#### 3. 反対意見(マイナス面)

- ・ 刈り株除去の困難さ
- ・ 高価な機械が必要
- ・ 農家にとって経済的負担

👉 準1級でも、どれか1つが欠けると内容点は大きく下がります。  
逆に、健康+土壌+費用の3観点がそろると内容点は非常に安定します。

---

## ②【構成】なぜ「3文構成」が最強なのか(準1級でも同じ)

原文は明確に、

- ・ 第1段落:背景・状況
- ・ 第2段落:賛成理由
- ・ 第3段落:反対理由

という構造です。

👉 したがって、

- ・ 1文=1段落対応
- ・ 採点者が「構造を瞬時に把握」できる
- ・ Organization(構成)で失点しにくい

という利点があります。

※ 2文構成も可能ですが、3文構成が最も安全です。

---

## ③【語彙】評価される言い換えの具体例(準1級版)

原文表現	要約での処理
burn stubble	stubble burning
stops farmers from doing this	banning stubble burning
smoke containing harmful chemicals	harmful smoke / polluted air
benefit health of rural and urban populations	protect people's health
small organisms such as bacteria	beneficial organisms
specialized mechanical equipment	expensive equipment / costly machinery

👉 完全な言い換えは不要。  
「意味保持 × 圧縮」が最優先です。

---

## ④【文法】準1級でも「安全構文」が勝つ理由

- ・ 仮定法・倒置・分詞構文 → 不要
- ・ 長い関係詞節 → リスク

- 評価されるのは  
明確な主語 + 論理接続 + 正確さ

👉 要約は「英文解釈力」のテストであり、表現力アピールの場ではありません。

---

## ② 模範解答①(標準・最も安定型)【詳細解説】

Some countries are considering banning the burning of crop stubble left after harvesting. Supporters argue that stopping this practice would protect people's health by reducing harmful smoke and would also improve soil quality by preserving beneficial organisms. However, opponents worry that removing stubble without fire requires expensive equipment that many farmers cannot afford. 語数:69 語

---

いくつかの国では、収穫後に畑に残る作物の刈り株を焼く行為を禁止することが検討されている。賛成派は、有害な煙を減らすことで人々の健康を守り、さらに有益な微生物を保つことで土壌の質も向上すると主張している。しかし反対派は、火を使わずに刈り株を除去するには高価な機械が必要で、多くの農家には負担できないと懸念している。

---

### ① 第1文の役割と評価ポイント

Some countries are considering banning the burning of crop stubble left after harvesting.

✓ 原文との対応

- some countries want to make a law
- stubble burning

✓ 評価される理由

- Some countries: 主語を一般化
- considering banning: 検討段階を正確に反映
- crop stubble left after harvesting: 定義を1フレーズで処理

👉 「何の話か」が一瞬で分かる導入。構成点が非常に安定。

---

### ② 第2文の役割と評価ポイント(最重要)

Supporters argue that stopping this practice would protect people's health by reducing harmful smoke and would also improve soil quality by preserving beneficial organisms.

✓ 原文との対応

- protect health

- harmful chemicals in smoke
  - soil quality
  - bacteria and organisms
  - ✓ 表現上の工夫
  - Supporters argue that ~: 準1級らしい客観表現
  - by ~ing を2回使用 → 因果関係を簡潔に
  - beneficial organisms: bacteria を抽象化
  - ✓ 評価される理由
    - 内容点: 満点候補
    - 語彙点: 準1級水準
    - 文法点: 安全かつ論理明確
- 

### ③ 第3文の役割と評価ポイント

However, opponents worry that removing stubble without fire requires expensive equipment that many farmers cannot afford.

- ✓ 原文との対応
  - difficult to remove stubble
  - specialized mechanical equipment
    - costs a lot
  - ✓ 表現上の工夫
  - However: 明確な対比
  - opponents worry that ~: 感情語を排した客観表現
  - cannot afford: 経済的制約を自然に表現
  - 👉 欠点を「費用」に一点集中。語数効率が非常に高い。
- 

### ③ 模範解答②(安全・やや抽象型)

Some governments plan to ban stubble burning after crops are harvested. Supporters say this would reduce health risks caused by polluted air and help maintain soil conditions by protecting small organisms. In contrast, critics point out that farmers may face financial difficulties, as removing stubble without burning often requires costly machinery. 語数: 65 語

---

一部の政府は、作物収穫後の刈り株焼却を禁止しようとしている。賛成派は、空気汚染による健康被害を減らし、小さな生物を守ることで土壌環境を維持できると述べている。一方で反対派は、焼却せずに刈り株を除去するには高価な機械が必要となり、農家が経済的困難に直面すると指摘している。